２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. １３

幼児教育研修（年齢別担任研修１歳児　第１回）　　受講者数　１１６名

日時　令和３年６月２９日（火）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター

講師　相模女子大学　学芸学部子ども教育学科　准教授　　金元　あゆみ氏

【内　容】

探索行動を支える環境とは
～自然や物との関わりを通して考える～

１歳児の探索活動は、生きている世界の面白さを知る体験であり、その中で自我が芽生え、完成が育っていく。探索活動を支える環境、自然やものとの出会いや関わり方の学びを深めていく。

講師　金元　あゆみ氏

【受講者の感想】

＊　**研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- 子どもと大人の見えている世界は異なるため「自分の見え方」のみで、子どもを理解するのではなく、子どもの見ているもの、感じている世界をともに楽しむ「子どもの見え方」へ転換していくことが大切だということを学んだ。目の前の子どもが何に興味をもって、何をしたいのかをしっかり見て、その思いに共感して接していこうと思った。
- 子どもが安心して探索活動ができるには、心の安全基地である保育者の存在（愛着）が必要であり、子どもの見ている世界をともに見て、思いを共有する「横並びのまなざし」が必要だと学んだ。横並びのまなざしを意識して、子どもの思いや願いを大切に関わっていきたいと思った。
- 探索活動を支える環境や保育者の関わりを具体的な事例から学べた。今後は、保育者間で子どものエピソードを伝え合い、子ども理解を深め合いたい。
- １歳児の探索は「生きている世界の面白さを知る体験」であり、その行動を通して試行錯誤しイメージを獲得しているということを学んだ。今後は、環境を子どもに当てはめるのではなく、子どもの動きや思いを形にするために環境を整えるようにしたい。

＊　**ご意見・ご感想**

- 具体的な事例や講師の実体験に基づく講義であったのでわかりやすかった。
- 今までの保育を振り返る良い機会となった子どもの様子を見て、どのような言葉をかけようかと深く考察することができた。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.３６

幼児教育研修（年齢別担任研修１歳児　第２回）　　受講者数９１名

日時　令和３年１０月２９日（金）　１５：００～１７：００

場所　梅田地域学習センター　４階ホール

講師　相模女子大学　学芸学部子ども教育学科　准教授　金元　あゆみ氏

【内　容】

探索行動を支える環境とは

～自然や物との関わりを通して考える～

１歳児の探索活動は、生きている世界の面白さを知る体験であり、その中で自我が芽生え、感性が育っていく。探索活動を支える環境、自然やものとの出会いや関わり方の学びを深めていく。

講師　金元　あゆみ氏

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- 今、なにが育っているのかを見ていくためには、子どもの動きや表情、視線や指差しから、「こういう気持ちなのかもしれない」「ここが楽しいと思っているのかもしれない」と共感していくことが大切だということを学んだ。子どもの姿を受容し、試したいことを経験できる環境づくりをしていきたい。
- １歳でもしっかりと考える力をもっていることを感じた。保育者の思いや願いを急がず、子どもの小さな発見を一緒に楽しんでいきたい。
- 保育映像には、子どもの思いを知ろうとして、子どもと同じ動きをする保育者の姿があった。横並びのまなざしの意味と大切さを実感することができた。子どもの心の動きを想像し、自分ならどう言葉をかけるか、どう見守るかなどを改めて考える機会となった。
- 探索中の子どもが何かを発見した際に、その発見を誰かに見せたくなるという講師の話を聞き、子どもの感じた驚きやうれしさを共有する身近な存在でありたいと思った。「探索活動を間接的に支えるのは子どもの世界を共有してくれる他者である」という講師の話から、子どもが「先生が見てくれている」「先生は私の思いや気持ちを感じてくれている」と実感できるような保育をしていきたいと思った。

＊　ご意見・ご感想

- 保育映像を見ながら、担当保育者と講師の質疑応答を聞き、どのような思いで子どもに接したのかということを共有したり、自席近くの他園の保育者と意見交換をすることで、自分の考えを整理して話すことができたり、自分と違う意見から多くのことを学ぶことが出来て、良い研修だった。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. ５７

幼児教育研修（年齢別担任研修１歳児　第３回）　　受講者数８５名

日時　令和３年１２月６日（月）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター　４階ホール

講師　相模女子大学　学芸学部子ども教育学科　准教授　金元　あゆみ氏

【内　容】

探索行動を支える環境とは

～自然や物との関わりを通して考える～

１歳児の探索活動は、生きている世界の面白さを知る体験であり、その中で自我が芽生え、完成が育っていく。探索活動を支える環境、自然やものとの出会いや関わり方の学びを深めていく。

講師　金元　あゆみ氏

【受講者の感想】

＊ **研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- 大人の見え方では、いたずらに見えてしまうことも、子どもの見え方では全く違う世界になるということを学んだ。一人一人の様子をよく見て、子どもは何と対話して楽しんでいるのかを考えていきたい。
- 子ども同士のものの取り合いは、「あなたの世界はとても魅力的だから、私の世界に取り入れたい」という、相手を認め合う関係の表れであることを学んだ。見方を変えることで、普段見ている子どもの姿が素敵な場面なのだと感じることができた。
- 同じ環境、同じものと出会っても、子どもたち一人一人の感じ方、探索の仕方は違うので、それをどのように保障していくのか、どのように関わっていくのかを考えることが大切だということを学んだ。子どもたち一人一人が安心して探索行動ができるよう、子どもが楽しんでいる世界を一緒に共感できる存在でありたい。また、子どものつぶやきや行動を見逃さずに記録して、子どもの楽しく素晴らしい世界を保護者にも発信してきたい。
- 急ぐ保育は子どもの気づきの機会を奪うという講師の言葉が胸に響いた。子どもの気づきを見守り、子どものつぶやきや気持ちに共感して寄り添っていきたい。

＊　**ご意見・ご感想**

- 他園の保育者の意見を聞くことで、自分では気づかなかったことやいろいろな考えがあることを知り保育の引き出しが増えた。とても充実した時間になった。
- 事例に出てくる保育者と子どもの心の通ったやり取りやエピソードに心が温かくなった。